

## 地球地図プロジェクトについて

### ○地球地図プロジェクトについて

地球地図プロジェクトは、地球環境問題の監視・分析等に必要な地球に関する基盤的な地理情報のデータベース（地球地図データ）を世界各国の地図作成機関の自発的協力の下で整備するプロジェクトで、日本国の国土交通省（当時は建設省）が1992年に本プロジェクトを提唱し始めました。

プロジェクトの進行管理は地球地図国際運営委員会（委員長：フレーザー・テイラー氏（カナダ国カルトン大学教授））が担当、事務局は日本国国土地理院が担う。現在の参加国は156カ国、データ公開国数は25カ国です。

現在、2007年の地球地図データ（第1版）の完成・公開を目指し、進めています。

### ○地球地図データについて

地球地図プロジェクトで整備する地球地図データは、以下のような特徴があります。

- ・ 1 kmの解像度（縮尺100万分の1の地図に相当）
- ・ 8つのデータ項目（海岸線・行政界、交通網、標高、河川・湖沼、人口集中地区、土地被覆、植生、土地利用）
- ・ 地球の全陸域を統一仕様でカバー
- ・ 5年ごとに更新

### ○主な利用用途例

#### （1）地球環境分野

例、土地被覆データ等により、砂漠化、熱帯雨林の減少等の進行状況把握

#### （2）防災分野

例、スマトラ沖大地震等の広範囲の自然災害の被害状況把握

#### （3）政策立案

例、土地利用や水資源の変化を将来予測することにより、適切な政策立案の基礎資料として活用

#### （4）教育分野

例、「地球地図の学校」の様に、教材として活用